



群馬県の財政状況

令和2年10月 群馬県総務部財政課



利根川の治水対策・首都圏の水利用の安定化のために建設された「ハッ場ダム」



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

ゆるキャラグランプリ2014 第1位

目次

Section1. 県の概要、経済の状況..... 2

- 群馬県の人口と強い経済 3
- 群馬県の恵まれた自然条件 4
- 東北～九州、太平洋～日本海を結ぶ交通の結節点 5
- 群馬県に受け継がれてきた産業技術の発展 6
- 群馬県の産業構造 7
- 恵まれた立地条件を活かした産業活力の向上 8
- 群馬県の魅力あふれる観光資源 9
- 群馬のトリビア 10

Section2. 財政状況と行政改革の取り組み..... 12

- 令和2年度群馬県当初予算 13
- 令和2年度一般会計当初予算（歳入） 14
- 令和2年度一般会計当初予算（歳出・性質別） 15
- 普通会計の決算収支 16
- 普通会計決算（歳入）の推移 17
- 県税決算の推移（普通会計） 18
- 普通会計決算（歳出・性質別）の推移 19
- 公債費及び投資的経費の推移 20
- 県債新規発行額と残高の推移 21
- 減債基金への積立て 22
- 行政改革の取り組み 23

Section3. 主な財政指標の状況..... 24

- 財政健全化法に基づく財政指標の推移 25
- 将来負担比率と実質公債費比率（平成30年度決算） 26
- 財政指標の推移 27
- プライマリーバランスの推移（決算ベース） 28

Section4. 公営企業・地方公社等について..... 29

- 公営企業会計の決算状況 30
- 地方三公社の決算状況（住宅供給公社） 31
- 出資法人の状況 32

Section5. 市場公募債発行計画 33

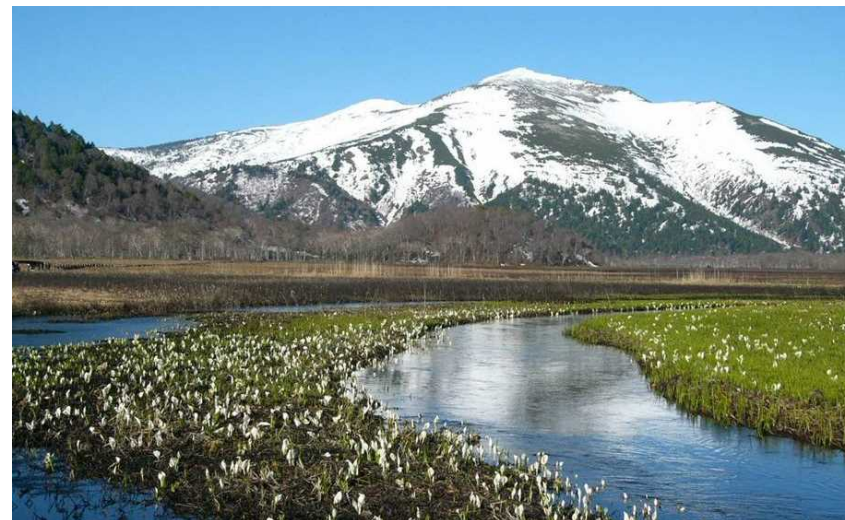
- 令和2年度市場公募債発行計画 34
- 群馬県の起債運営について 35
- お問い合わせ先 36



Section 1.

県の概要、経済の状況

- 人口規模は約200万人で中堅クラス。発達した交通網、安定した気候と災害への安心感、長い歴史で築かれた基盤技術などで、工場立地件数は全国トップクラス
- 本州のほぼ中央、首都東京から約100kmに位置しており、アクセスの便が良い
- 多彩で多様な農業が展開され、「首都圏の台所」と呼ばれる
- 温泉、自然、歴史遺産といった魅力あふれる観光資源が人々を惹きつける



尾瀬国立公園

国民的愛唱歌「夏の思い出」で全国に名を知られる国立公園です。

群馬県の人口と強い経済



- 工場立地件数は常に全国トップクラスであり、強い経済が特徴

恵まれた立地環境、利便性の高さ、災害への安心感から、多くの企業が群馬県に進出しています。

工場立地件数

57 件

全国 第4位

(令和元年)

	H25年		H26年		H27年		H28年		H29年		H30年		R元年	
1位	茨城県	57	茨城県	77	茨城県	84	静岡県	74	静岡県	97	愛知県	77	静岡県	76
2位	兵庫県	51	群馬県	61	兵庫県	73	愛知県	67	群馬県	62	群馬県	69	愛知県	74
3位	静岡県	50	静岡県	53	群馬県	57	群馬県	56	兵庫県	59	茨城県	68	茨城県	65
4位	群馬県	48	愛知県	47	静岡県	55	兵庫県	56	愛知県	51	静岡県	67	群馬県	57
5位	愛知県	46	兵庫県	47	愛知県	52	宮城県	48	茨城県	46	兵庫県	56	岐阜県	52

※製造業、ガス業、熱供給業及び電気業(水力・地熱・太陽光発電所は除く)

人口

194.2 万人

全国 第18位

(令和元年10月1日)

生産年齢人口比率

58.2 %

全国 第15位

(令和元年10月1日)

有効求人倍率

1.51 倍

全国 第10位

(令和2年3月)

1人当たり県民所得

3,098 千円

全国 第11位

(平成28年度)

年間製造品出荷額等

9兆1360 億円

全国 第13位

(令和元年)

農業産出額

2,454 億円

全国 第14位

(平成30年)

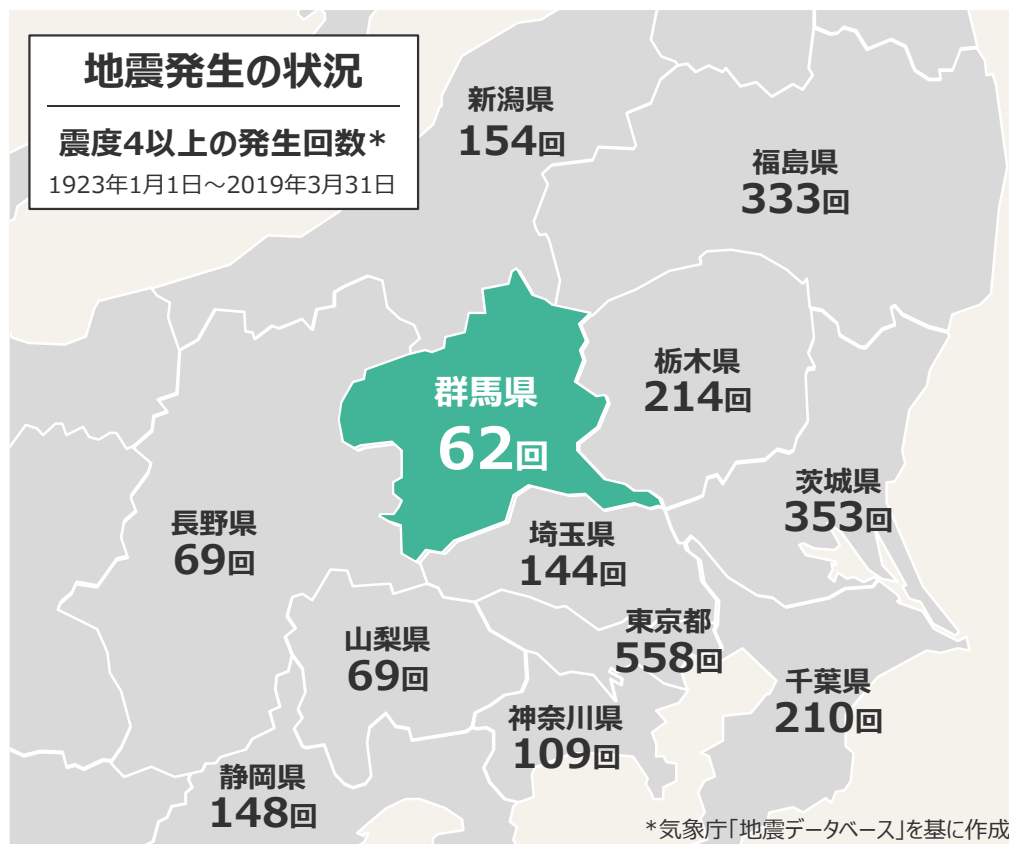
群馬県の恵まれた自然条件



- 関東一、地震が少ない県であり、地震災害のリスクが非常に低い
- 日照時間、年間快晴日数が全国で上位に位置するなど恵まれた気象条件を有し、自然災害が少ない

地震災害のリスク

- 群馬県は、地震や水害などの自然災害が比較的少なく、工場や物流拠点施設をはじめとする様々な産業施設の立地に有利な条件を備えています。

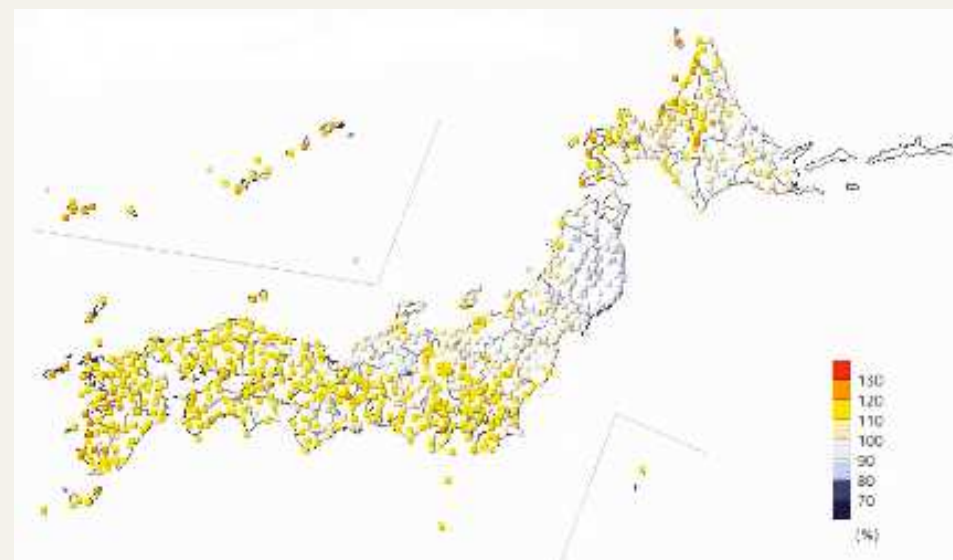


恵まれた日照時間

- 群馬県は、年間の日照時間の長さが全国第2位、快晴日数が全国第15位と上位に位置しています。降雪量も平野部では比較的少なく、恵まれた気象条件を有しています。

日照時間（年間）全国2位

1位 山梨県 **2位 群馬県** 3位 愛知県

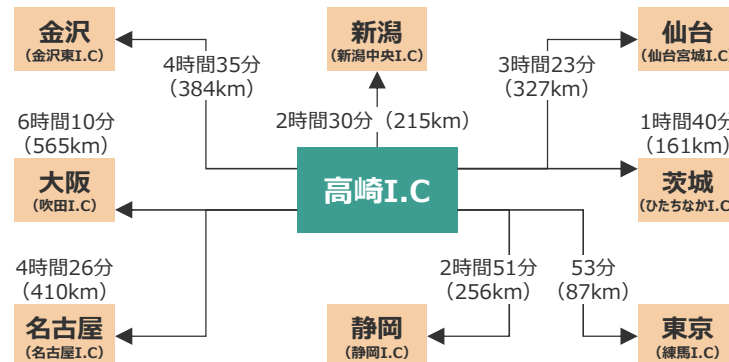


（出典）気象庁ホームページ

心にググっと
んみ

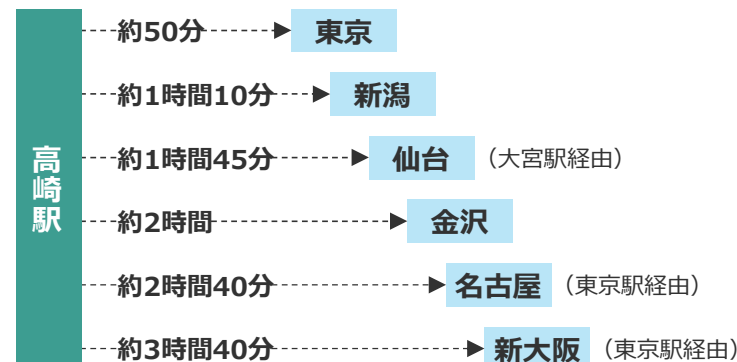
-
- This map illustrates the proposed extension of the Tohoku Shinkansen from Fukushima to Sendai. The main line is shown in red, with a branch to Maebashi and Tokyo. Key stations include Sendai, Utsunomiya, Maebashi, Tokyo, and Fukushima. The map also shows existing Shinkansen lines and other transportation routes in the region.

- ## 高速道路利用



- 上越新幹線と北陸新幹線が走っており、鉄道交通の結節点である高崎駅を中心に各方面へのアクセスが便利です。

新幹線利用



群馬県に受け継がれてきた産業技術の発展



● 豊富な資源と地域性から成り立つ伝統ある技術の、現在に至るまでの継承と発展

受け継がれる製造業の系譜

- ・利根川の存在や交通網の結節点という優良な地域条件を背景に、各所の技術や人材が集中し製造業が発展
- ・また、生糸産業に欠かせない機織機が、精密機器として群馬県内で独自に開発されるなど、技術の精密化も発展
- ・さらに、豊富な電力を確保できる環境が、中島飛行機（現SUBARU）をはじめとする日本代表企業を創出
- ・その後、中島飛行機を含め、軍需工業が発達。戦後はそれらの技術を転用し、輸送機器・業務用機器などの製造業が台頭
- ・時代を超えて受け継がれる技術が、現在の「SUBARU」や「サンデン」の基盤となって表れている



地理的優位性と技術の蓄積による産業の集積



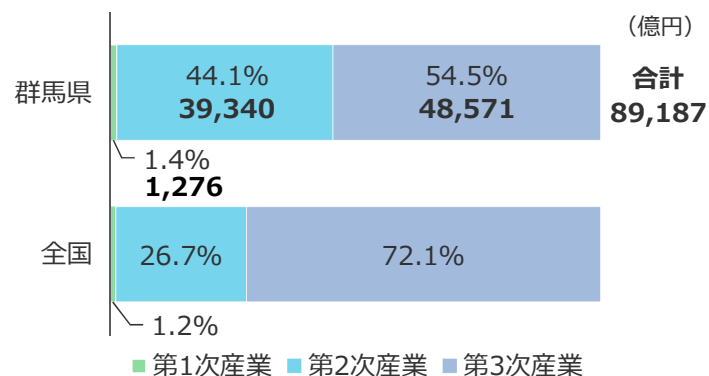
輸送機器	① SUBARU	③ ミツバ	⑤ マレリ
	② 日野自動車	④ 日本発条	⑥ ボッシュ
化学	⑦ 信越化学工業	⑧ 協和キリン	⑨ 関東電化工業
食料品	⑩ 山崎製パン	⑫ ブルドックソース	⑭ ダノンジャパン
	⑪ 高崎森永	⑬ 高梨乳業	⑮ 日本ケロッグ
業務用機器	⑯ キヤノン電子	⑰ サンデン	
飲料・飼料	⑱ 明治	⑲ ポッカサッポロ	⑳ サントリー

群馬県の産業構造



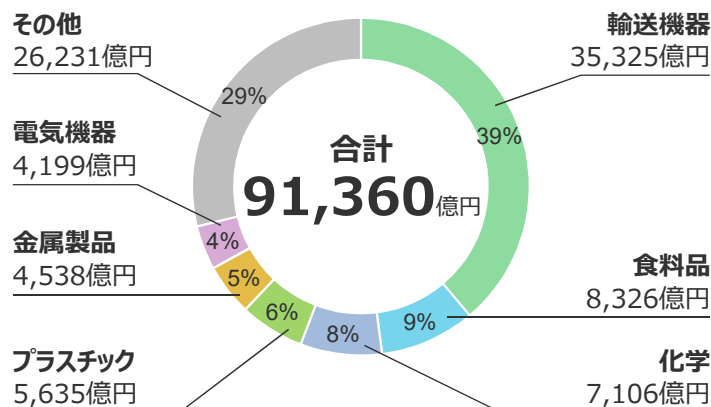
- 発達した交通網、安定した気候、自然災害の少なさ、長い歴史で築かれた基盤技術などで、ものづくり産業が発展
- 豊富な水資源や首都圏に位置するなど有利な立地条件を活かし、「首都圏の台所」として、多彩で多様な農業が展開

産業別名目県内（国内）総生産



出典：群馬県県民経済計算（H29年度確報）
及び内閣府国民経済計算（H29年度確報）

製造品出荷額等



出典：2019年工業統計（確報）

主な県内立地企業

業種	企業名	
輸 送 機 器	SUBARU	日本発条
	日野自動車	マレリ
	ミツバ	ボッシュ
食 料 品	山崎製パン	高梨乳業
	高崎森永	ダノンジャパン
	ブルドックソース	日本ケロッグ
化 学	信越化学工業	協和キリン
	関東電化工業	
業務用機器	キヤノン電子	サンデン
飲 料 ・ 飼 料	明治	サントリー
	ポッカサッポロ	

農業生産量全国順位（平成30年）

順位	品目	生産量	占有率
1位	こんにゃくいも	52,100 t	93%
	キャベツ	276,100 t	19%
	えだまめ	6,420 t	10%
2位	きゅうり	54,900 t	10%
	ふき	1,380 t	14%
	うめ	5,740 t	5%
3位	ほうれんそう	21,400 t	9%
	なす	25,800 t	9%
	レタス	46,000 t	8%
	はくさい	32,700 t	4%
4位	小麦	23,100 t	3%
	生乳	216,330 t	3%

出典：H30年農林水産統計

製造品出荷額等全国1位の製品（平成30年）

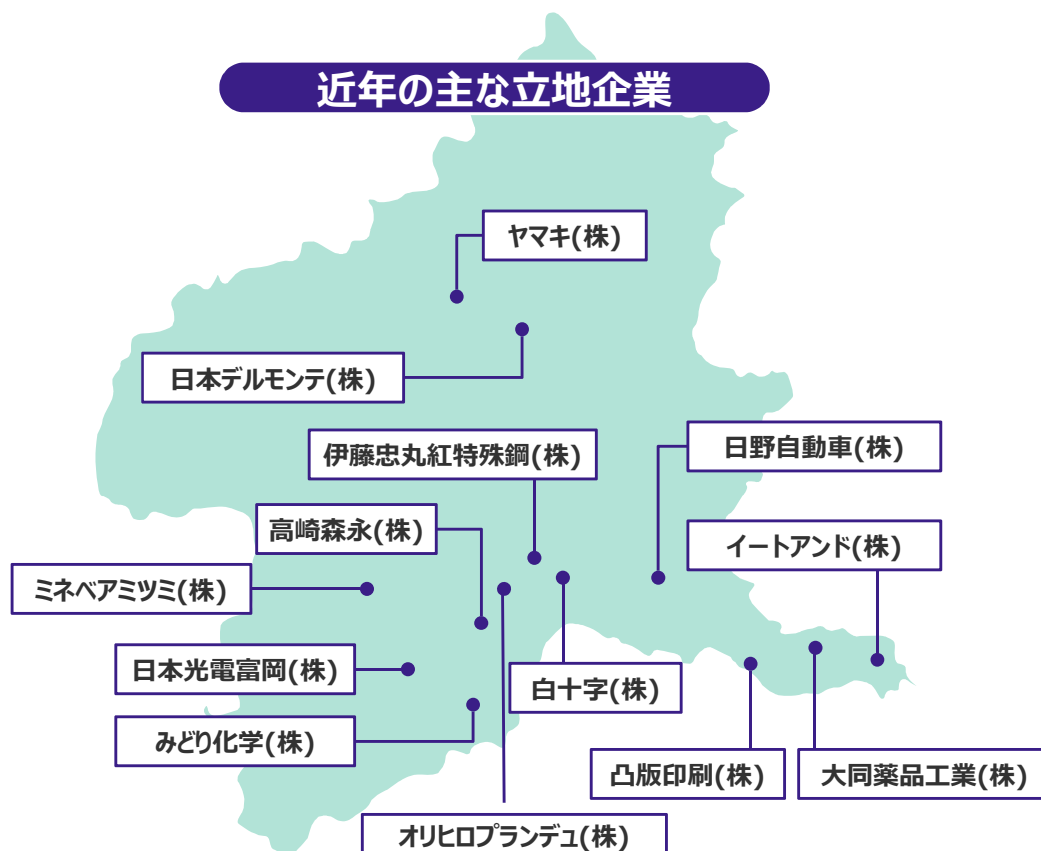
製品	出荷額
プラスチック（信越化学工業、モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパンなど）	1,844億円
乗用車ボデー（東亜工業、エイチワン など）	779億円
清涼飲料（カルピス、明治など）	553億円
豆腐（相模屋食料、日本ビーンズ など）	295億円

出典：2019年工業統計（確報）

恵まれた立地条件を活かした産業活力の向上

企業立地（民間企業から選ばれる群馬県）

近年の主な立地企業



- ・「事業継続体制」を意識した民間企業の立地が加速
- ・民間企業に選ばれる理由
「災害リスクの低さ」、「東京圏との同時被災の回避」、
「東西南北への良好なアクセス」、「東京圏との距離」など
- ・データセンター、物流のバックアップ拠点として貢献

Gメッセ群馬（群馬コンベンションセンター）オープン



- ・高崎駅東口から約 1.1 km の位置に、展示施設と会議施設が一体となった施設が完成。国際会議や大規模展示会、1万人規模のライブなどが開催可能
- ・コンベンションの開催により交流人口の増加や大きな経済効果が期待でき、人口減少社会が進むなか、「**中長期的に県経済を牽引する社会インフラ**」となる

Gメッセ群馬（群馬コンベンションセンター）の概要

- ・施設規模：多目的展示施設 10,000㎡、会議施設 3,400㎡
- ・概算事業費：約280億円
- ・想定年間来場者数：約96万人
- ・想定運営収支：収入 約5億円、支出 約4億円
- ・経済効果：年間約128億円



群馬県の魅力あふれる観光資源



● 温泉、自然、歴史遺産といった魅力あふれる豊富な観光資源が人々を惹きつける

人気が高い群馬県ブランドの温泉

- 群馬県の温泉は泉質も施設も種類が豊富です
- 全国的にも人気が高く、群馬県の観光の目玉として抜群の集客力を誇り、大きな経済効果をもたらしています

第33回にっぽん温泉100選

総合ランキング（抜粋）

総合順位	温泉地名	所在地
1	草津	群馬県
2	別府八湯	大分県
3	指宿	鹿児島県
4	有馬	兵庫県
5	道後	愛媛県
13	伊香保	群馬県
24	万座	群馬県
30	四万	群馬県
49	みなかみ18湯	群馬県

出典：（株）観光経済新聞社

みんなで選ぶ 第12回温泉大賞

温泉番付 東（抜粋）

総合順位	温泉地名	所在地
横綱	草津	群馬県
大関	箱根	神奈川県
関脇	登別	北海道
小結	伊香保	群馬県
前頭	万座	群馬県

出典：BIGLOBEによるサイト上でのWebアンケート調査（アンケート期間は2019年12月16日～2020年2月19日）



草津温泉



伊香保温泉



水上温泉



群馬県の自然

- 群馬県は山林が県土の約3分の2を占め、豊かな自然にあふれています
- 県内では川、滝、湖沼、湧水など、さまざまな水の形に出会うことができます。山々は古く『万葉集』にも詠みこまれ、深田久弥著の『日本百名山』では県内から11の山が選ばれています
- また、日本を代表する美しい風景と貴重な生態系を有する尾瀬は、全域が国立公園の特別地域であり、その核心部は特別保護地区として、国の特別天然記念物に指定されています



尾瀬



赤城山



わたらせ渓谷鉄道

妙義山

群馬県の歴史遺産



富岡製糸場



天神山古墳

富岡製糸場は、明治5（1872）年に日本初の官営器械製糸工場として設立されました。平成26年に、世界遺産に登録されるとともに、国宝にもなりました

古墳時代、ヤマト政権の東国支配の拠点として繁栄していた上毛野。群馬県には1万基以上の古墳があるといわれており、古墳の数は全国で有数。太田市「天神山古墳」は、全長210mで、東日本で最大の前方後円墳

群馬のトリビア①



●日本一・世界一

つつじが岡公園	推定樹齢 800年を超えるヤマツツジをはじめ約1万株のツツジが美しく咲き誇る名勝。アメリカのツツジ・シャクナゲ協会会長デビット・リーチ氏が「世界一」と賞賛。
利根川	みなかみ町の大水上山（おおみなかみやま）を源流とし流域面積約 16,840km ² で日本一。
ぐんま昆虫の森	敷地面積が 45haで体験型昆虫施設としては日本最大。
緑の少年団の 団員数	平成 29年度現在、56,526名で日本一の数。また、県内の全小中学校に緑の少年団が設置されているのは群馬県だけ。
公営電気事業体の発電 所数	群馬県企業局には、発電所が 35カ所（水力 32、火力1、太陽光2）あり、公営電気事業者（地方公共団体が経営する電気事業者）として日本一の数で、供給電力量も日本一（平成 30年9月末時点）。
下久保ダム	堤体の長さが 605mで、重力式コンクリートダムの中で日本一の長さ。
丸沼ダム	高さが 32.1mで、コンクリートバットレスダムの中で日本一の高さ。
ぐんま県境 稜線トレイル	群馬と新潟・長野の県境稜線 100kmを主要ルートとしたロングトレイル（登山道やハイキング道、林道、古道などをつなぎ合わせた距離の長い自然歩道）。国内のロングトレイルの中でも稜線の長さは最長。
草津温泉	「日本三名泉」「日本三大薬湯」。自噴湧出力が毎分 32,300ℓで日本一。
こんにやく	こんにやくいの収穫量は、群馬県が全国の 90%以上で日本一（農林水産統計 29年）。
キャベツ	婦恋村を中心に栽培が盛んで、日本一の収穫量（平成 28年産野菜生産出荷統計）。
夏秋ナス	露地なすを中心とした栽培が盛んで、日本一の収穫量（平成 28年産野菜生産出荷統計）。
繭と生糸	群馬県は繭の生産量、生糸の生産量、養蚕農家戸数が日本一（大日本蚕糸会調べ 28年）。
鮎	1年で世代交代する鮎。県水産試験場で生産している養殖鮎は、平成 29年で 48回世代交代を行っており、日本一。
荒船風穴	下仁田町にあり、明治 38年から大正にかけて建設された天然の冷風を利用した垂種貯蔵施設で、貯蔵能力は種紙 110万枚で日本一。
群馬県食肉卸売市場	群馬県食肉卸売市場は小動物（豚）のと畜許可頭数が1日当たり3,000頭で、日本一。また、EU への輸出が許可された施設としては日本初。
清涼飲料水出荷額	清涼飲料水の出荷額は日本一（平成 28年経済センサス活動調査（平成 27年実績））。
空洞コンクリート ブロック 出荷額	空洞コンクリートブロックの出荷額は日本一（平成 28年経済センサス活動調査（平成 27年実績））。
小型ステーパー	マックス㈱が生産する小型ステーパーは国内でのシェア日本一。
ヤマダ電機	家電量販店として年間売上高日本一。
高崎だるま	高崎だるまは年間約 90万個を出荷で日本一。
創作こけし	創作こけしの生産量は日本一。
物価水準	日本一物価水準が低いのは群馬県（消費者物価地域差指数 群馬県：95.9）（総務省・小売物価統計調査（構造編）年報・平成 28年）。
豆腐・しみ豆腐・油揚げ類 の 出荷額	豆腐・しみ豆腐・油揚げ類の出荷額は日本一（平成 28年経済センサス活動調査（平成 27年実績））。
埴輪	国宝・重要文化財に指定されている埴輪 58件のうち、群馬県出土の物は 22件あり、日本一の数。
史跡上野国分寺七重塔	国分寺の塔として日本最大級の推定高 60.5mの七重塔が建てられていた。
天神山古墳	太田市にある「天神山古墳」は、全長が 210mで東日本で最大の前方後円墳。
上毛かるた	累計で約 148万組発行、郷土かるたの中で日本一。

フランソワ・ボンボン所蔵数	館林美術館が所蔵する「フランソワ・ボンボン」の作品コレクションの数は全 67点で、日本一。
高崎市内の山車数	高崎市内にある江戸型山車数の保存数は 38台で、日本一の数。
土合駅	ホームと駅舎の間に日本一の階段数の 486段の階段がある「日本一のモグラ駅」。
利根川・江戸川 サイクリングロード	全長約170km。川沿いでは日本一長いサイクリングロードで、群馬県はその出発点。
メロディーライン設置数	県内には 10カ所設置されており、日本一の数。
自動車保有台数	人口に対する自動車の保有台数は日本一。
免許保有率	人口に対する自動車運転免許を保有している割合が日本一。

●日本初・世界初

尾瀬	「ごみ持ち帰り運動」が尾瀬で初めて行われた。
赤谷プロジェクト	生物多様性の復元と持続的な地域づくりのため、地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会、林野庁 関東森林管理局、日本自然保護協会の 3 者が協働して、国有林を管理する日本初の取り組み。
伊香保温泉	温泉まんじゅう発祥の地。また、伊香保温泉の石段（365段）は、金刀比羅宮（香川県 1,368段）、立石寺（山寺）（山形県 1,015段）と並び「日本三大名段」。
四万温泉	国民保養温泉地第一号に指定。「積善館」の建物のうち、「本館」は日本最古の木造湯宿建築。
ヤマメの人口ふ化	昭和32年に、婦恋村の養魚家が、日本で初めてヤマメの人工授精・ふ化に成功。
森喜作	桐生市出身の農学博士「森喜作」が、昭和17年に純粋培養菌種駒法（種駒栽培）を開発し、世界で初めていたけの人工栽培に成功。
ハコスチ	遊魚用ニジマス「ハコスチ」は、美しい姿形の箱島系ニジマスと野性味が強いスチールヘッド系の交配によって生まれた、希少な釣り用系統。平成27年に、日本で初めて釣り用のニジマスとして開発された。
富岡製糸場	日本初の本格的な模範製糸工場として操業開始。また、産業遺産としては、国内初の国宝。
新町紡績所	日本で最初に官営で操業した肩糸や肩繭を使った絹糸紡績工場。
中小坂鉄山	下仁田町にあった鉄山で、江戸時代から製鉄が行われ、明治になって日本初の西洋式・近代的製鉄所として操業を開始した。
わくわく自販機 ミュージアム	（一社）日本自動販売システム機械工業会が日本で初めて開設した自動販売機をPRする常設施設（現在はサンデンホールディングス㈱が運営）。
恐竜の足跡	神流町の連岩（さざなみいわ）の化石にあるくぼみが、研究者によって、日本で初めて恐竜の足跡の化石に認定された。
岩宿遺跡	日本で最初に発見された旧石器時代の遺跡。
碓氷峠	交通の要衝である碓氷峠に鉄道が開通したのは明治26年のこと。信越本線の横川～軽井沢間は、最大66.7パーミル、標高差553mの急勾配のため、レールの間に歯車のレールを敷設し、歯車を機関車の歯車と噛みあわせて運行する「アプト式」を採用しました。明治45年には国有鉄道幹線では最初に電化された。平成 9年の長野新幹線開通を機に廃線。
群馬交響楽団	昭和20年創設の「高崎市民オーケストラ」を前身とし、「群馬フィルハーモニーオーケストラ」と改称後、昭和22年にプロとなり、昭和38年に群馬交響楽団と改称された。昭和30年に群馬がモデルの映画「ここに泉あり」が公開されて注目を集める。また、県内の小中学生にオーケストラの演奏を身近に感じる機会として開催されている移動音楽教室は、昭和22年から始まり、延べ630万人以上の児童・生徒が鑑賞している。
上泉伊勢守信綱	剣術の新陰流を創始したほか、袋竹刀を発明。
中学生まで医療費無料	所得制限や受診時の窓口負担なく、中学校卒業まで医療費が無料となる制度を、全国に先がけて平成21年10月から群馬県が実施。

群馬のトリビア②



●日本最古

機部温泉	「日本三名泉」「日本三大薬湯」。自噴湧出力が毎分 32,300ℓ で日本一。
神津牧場	1年で世代交代する鮎。県水産試験場で生産している養殖鮎は、平成 29年で 48回世代交代を行って おり、日本一。
上野三碑（山上碑、多胡碑、金井沢碑）	太田市にある「天神山古墳」は、全長が 210mで東日本で最大の前方後円墳。
安政の遠足	累計で約 148万組発行、郷土かるたの中で日本一。

●日本で唯一

上野村のシオジ林	上野村檜原にあるシオジの原生林は、シオジ林としては日本で唯一、天然記念物に指定されている。
アザレアコレクション	ぐんまフラワーパークの「アザレアコレクション」は、世界的にも貴重なコレクションとして評価されている。
ウクレレ	前橋市の三ツ葉楽器(株)は、国内で唯一ウクレレを量産。
ダノンジャパン(株)館林工場	館林市にある「ダノンジャパン(株)館林工場」は、国内で唯一同社の製品を製造する工場。
日本ケロッグ（合同）高崎工場	高崎市にある「日本ケロッグ（合同）高崎工場」は、国内で唯一同社の製品を製造する工場。
高梨乳業(株)群馬工場	高崎市にある「高梨乳業(株)群馬工場」は、国内で唯一ハーゲンダッツのアイスクリームを製造する工場。
重粒子線がん治療施設	総合病院に併設された重粒子線治療施設は群馬大学医学部附属病院（前橋市）のみ。
(株)SUBARU	「(株)SUBARU群馬製作所」では「スバル」ブランドで自動車を生産。世界でも数少ない「水平対向エンジン」を搭載し、群馬から日本国内、さらに全世界へ輸出。
ヤマト発動機(株)	太田市の「ヤマト発動機(株)」は、ボートレース用のモーター（エンジン）とボートを国内で唯一生産。
AED	富岡市にある医療機器メーカー「日本光電富岡(株)」は、A E D（自動体外式除細動器）を国内で唯一製造。
自然史博物館	日本で唯一カマサウルスの実物化石を使った全身骨格を展示。ブラキオサウルスの全身骨格復元模型の展示や、トリケラトプスの実物骨格を展示しているボンベッドも、日本で唯一。また、館内のブナ林のジオラマは高さ日本一のほか、日本に数点しかないダーウインの手紙を日本で初めて公開。
上三原田の歌舞伎舞台	渋川市にある国重要有形民俗文化財。ガンドウ機構（三方の板壁を外側に倒して舞台面を 2 倍以上の広さにする）、遠見機構（舞台の奥に遠見と呼ぶ背景をつけ、奥行きを深く見せる）、柱立式回転機構（平舞台いっぱいの回転部を回転させる）、二重セリ機構（二重と呼ぶ小舞台を天井・奈落の双方からせり上げ、せり下ろす）という全国に例のない 4 つの機構があり、その操作技術とともに伝承されている。
ゲルニカ（タピスリ）	県立近代美術館が所蔵する「ゲルニカ（タピスリ）」は、ピカソの「ゲルニカ」をもとに本人が監修して作られた綴織りて、3点のみ制作された貴重な美術品。日本では同館のみが所蔵。
主要地方道佐野古河線	渡良瀬遊水地の西側を走る主要地方道佐野古河線は、群馬、栃木、埼玉、茨城 4 つの県をまたぐ日本で唯一の県道。

●日本三大・世界三大

妙義山	耶馬溪（大分県）、寒霞溪（かんかけい）（香川県）と並び、「日本三大奇勝」。「日本近代登山の父」ウォルター・ウェストンが妙義の山岳ガイド根本清蔵に登山技術を教えたことから「近代登山発祥の地」ともいわれる。
谷川岳	日本百名山で、剱岳（富山県）、穂高岳（長野県・岐阜県）と並んで「日本三大岩場」。
川中温泉	美肌効果があると言われ、龍神温泉（和歌山県）、湯の川温泉（島根県）とともに、「日本三美人の湯」。
太田焼きそば	横手やきそば（秋田県）、富士宮やきそば（静岡県）とともに「日本三大焼きそば」。
水沢うどん	稲庭うどん（秋田県）、讃岐うどん（香川県）と並んで「日本三大うどん」。
伊勢崎境界島村地区	世界遺産「田島弥平旧宅」がある伊勢崎境界島村地区は、かつて福島県伊達地方、長野県上田地方とともに「日本三大蚕種製造地帯」といわれ、蚕種の生産が盛んだった。
貫前神社	531年創建と伝えられ、927年の『延喜式』の神名帳に掲載されている由緒ある神社。総門よりも社殿が低いところにある「下り宮」で、鶴戸神宮（宮崎県）、草部吉見神社（熊本県）と並んで「三下り宮」。
曹源寺のさざえ堂	太田市にあり、会津さざえ堂（福島県会津若松市）、平等山成身院百体観音堂（埼玉県本庄市）とともに、「三大さざえ堂」。（さざえ堂とは、螺旋状の回廊を有する特異な建築物で、江戸時代に各地で建設された）
碓氷関所	安中市にある旧中山道の関所。箱根関所（神奈川県）、新居関所（静岡県）とともに「日本三大関所」。なお「日本四大関所」の場合は、三大関所に福島関所（長野県）が加わる。
関孝和	円周率や球の体積の計算方法を考え出し、ニュートン、ライプニッツと並ぶ世界三大数学者。
土師の辻	藤岡市の土師神社にあり、石川県の羽咋神社、大阪府の住吉神社とともに「日本三辻」。（相撲辻とは屋外で行った相撲の土俵のこと）
船津伝次平	幕末から明治にかけて活躍した農業指導者で、奈良県の中村直三、香川県の奈良専三とともに「日本三老農」。群馬をはじめ我が国の農業技術改良や普及に尽力した。
高山彦九郎	高山彦九郎は、江戸時代後期の尊皇思想家で、林子平・蒲生君平とともに「寛政の三奇人」。幕末の尊皇運動に大きな影響を与えた。

●貴重・希少

沼田の河岸段丘	利根川、薄根川や片品川の両岸で見ることができる。特に片品川に沿って広がる 7 段の段丘は、規模が大きく形がはっきりしているため、多くの高校の教科書で、その典型的な場所として紹介されている。
チャップミゴケ	硫黄泉や硫化金属鉱山付近の流水中や湿岩に生育するゴケで、北海道から九州にかけて分布。中之条町六合地区の元山にあるチャップミゴケ公園は、鉄鉱石の露天掘り跡に強酸性の湯が湧出し、チャップミゴケが群生している。広範囲に生育しているのは珍しく、国の天然記念物に指定されている。
満徳寺	太田市にあり、江戸時代中頃に以降に江戸幕府の公認を受けた、世界に二つしかない縁切寺の一つ。もう一つは鎌倉の東慶寺。「駆け込み寺」とも呼ばれ、江戸時代、離婚を求めて駆け込んだ妻を救済し、夫との離婚を達成させてくれた尼寺。
平坦地にある 3 県境	東武日光線柳生駅の近くには群馬、栃木、埼玉の 3 県の県境が平地の水田内にある珍しい地点がある。

Section 2.

財政状況と行政改革の取り組み

- 昭和32年以降、63年間連続で黒字決算となり、安定した財政運営を実施
- 臨時財政対策債を除く県債残高は、平成14年度をピークに減少傾向
- 人口千人当たりの職員数（一般行政部門）は、少ない方から数えて全国2位の2.03人



草津温泉

自噴する温泉としては、日本で一番の湧出量を誇ります。街の中心にある湯畑は草津のシンボルとなっています。

令和2年度群馬県当初予算



基本方針

- キーワードは「改革+創造予算」「新群馬創生始動予算」「前例踏襲脱却予算」
- 事業の見直しなどにより財政の健全性を確保するとともに、県民の安全・安心を支えるための取組の充実・継続、群馬県に富を生み出すための新たな取組の実施により、県民の幸福度向上につなげる予算を編成

4つの重点施策

1

災害に強く、安心な暮らしと
安定した経済活動の実現

2

群馬県の魅力とブランド、
ライフスタイルの構築と発信

3

共創とデータ活用による
新しいリソースの創出

4

財政の健全性の確保

特徴的な施策

防災・減災対策の 集中的な実施

予算額：343.6億円



- 頻発・激甚化する水害等の異常気象といった新たな脅威にしっかりと対応するため、ハードとソフトが一体となった防災・減災対策を集中的に実施

【ハード】

河川改修、土砂災害対策

【ソフト】

水害時避難計画の作成支援等

多文化共生・共創 「群馬モデル」の構築

予算額：1.5億円



- 本県経済の活性化に不可欠な外国人材受け入れのため、ベトナムでの合同企業説明会や、企業向け相談会などを開催
- 日本人・外国人県民が共に輝くための社会を「共創」するため、外国人の県内定着や起業、日本語学習等を支援

イノベーションエリア整備

予算額：2.1億円

R元.2月補正



- 県庁32階フロアを「多様な人々が常に集まり、交流することで、次々に新しいリソースが生まれ、発信される空間」とするため、カフェやイノベーションエリアを整備
- 動画・放送スタジオでは、県政情報や県の魅力を伝える動画を、ローコストかつスピーディーに制作・配信し、情報発信を大幅に強化

事業の見直し

- 時代の変化や費用対効果、他県との比較、役割分担などの観点から議論を重ね、計242件（▲13.6億円）の見直しを実施
- 県民会館など、10の県有施設について、あり方の見直しに着手

歳入・自主財源の確保

- ぐんま天文台、ぐんま昆虫の森などの14施設についてネーミングライツの導入を推進
- ぐんまちゃんのブランド力強化や群馬交響楽団の海外公演支援などの資金調達手段として、新たにクラウドファンディング型ふるさと納税を実施

令和 2 年度一般会計当初予算（歳入）



- 消費税率の引き上げなどにより、県税は15億円、地方消費税清算金は266億円の増加
- 県債は、投資的経費の抑制などにより、160億円の減少
- 地方交付税の増加や事業の見直しにより財源不足が解消したことなどから、基金等繰入金は54億円の減少

区分		R 2 年度 当初予算額（億円）	R 元年度 当初予算額（億円）	前年度比 （%）
県税		2,465	2,450	100.6
地方消費税清算金		1,021	755	135.2
地方譲与税		369	370	99.7
地方交付税		1,309	1,247	105.0
国庫支出金		840	855	98.3
県債		965	1,125	85.8
	臨時財政対策債	380	416	91.3
	その他の県債	585	709	82.5
基金等繰入金		157	211	74.4
その他		325	498	65.3
合計		7,451	7,511	99.2
内訳	自主財源	3,946	3,877	101.8
	依存財源	3,505	3,634	96.4

※ 臨時財政対策債は、地方交付税の不足を補うものとして国から地方団体に発行額が割り当てられ、償還費は後年度の地方交付税に加算される地方債（借入）で、実質的な地方交付税とされているものです。

※ 依存財源は地方譲与税、地方特例交付金、地方交付税、交通安全対策特別交付金、国庫支出金及び県債です

※ 自主財源は依存財源以外の財源です

令和 2 年度一般会計当初予算（歳出・性質別）



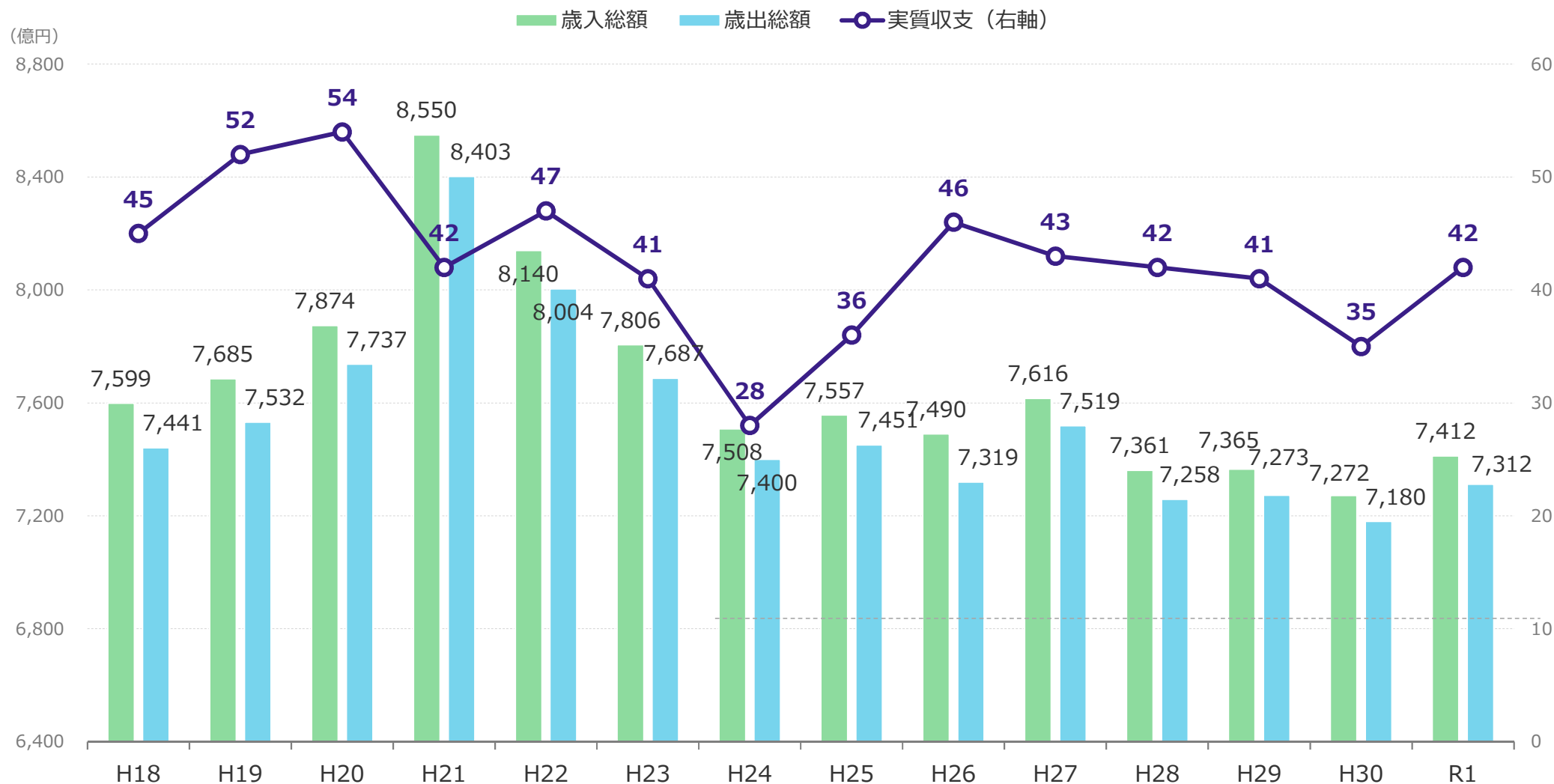
- 令和 2 年度当初予算規模は、前年度対比0.8%の減
- 防災・減災対策をはじめとした県民の安全・安心を支えるための取り組みを充実させるとともに、前例にとられない情報発信や、民間の知恵と資金を活用するための仕掛けづくりなど県民の幸福度向上に向けた施策に取り組む

区分	R 2 年度 当初予算額（億円）	R 元年度 当初予算額（億円）	前年度比 （%）
義務的経費	3,535	3,550	99.6
人件費	2,196	2,201	99.8
退職手当	211	204	103.6
退職手当除き	1,985	1,997	99.4
扶助費	337	329	102.5
公債費	1,002	1,020	98.3
投資的経費	974	1,270	76.7
補助公共事業	306	287	107.0
単独公共事業	500	587	85.1
その他の建設事業	168	396	42.4
補助費等	2,348	2,113	111.1
その他	594	578	102.7
合計	7,451	7,511	99.2
うち社会保障関係費	1,069	1,034	103.3

普通会計の決算収支



- 昭和32年度以降、63年間連続で黒字決算となり、安定した財政運営を実施
- R元年度は、歳出では防災・減災対策や令和元年台風第19号に係る災害復旧事業の実施などにより、歳入歳出とも前年度を上回った。実質収支は42億円の黒字

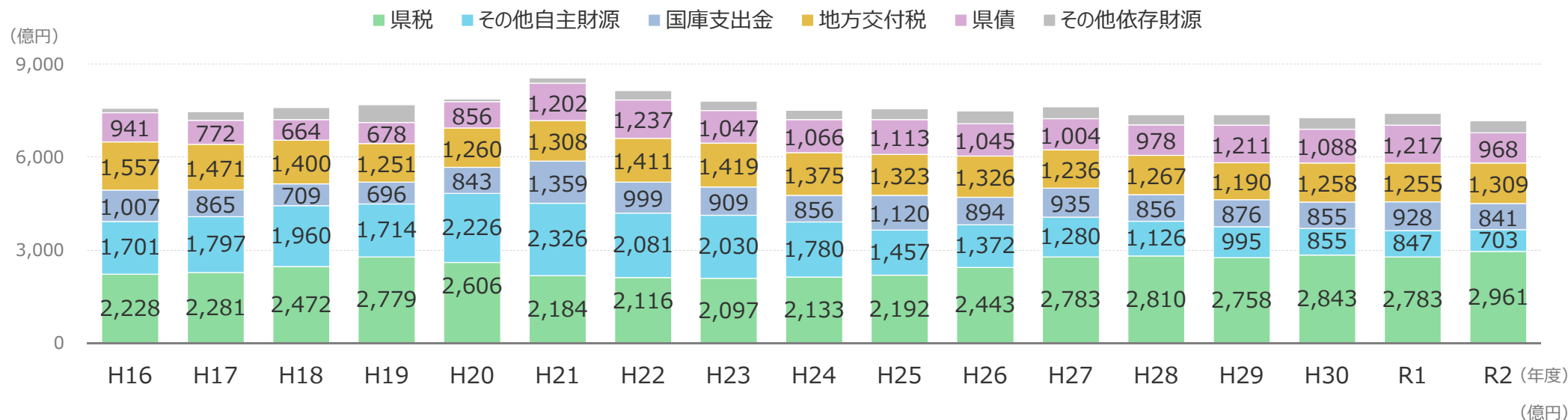


※R元年度まで決算ベース、R2年度は当初予算ベース

普通会計決算（歳入）の推移



- R元年度の県税収入は、法人県民税・事業税の減収などにより、前年度に比べ60億円の減少
- R元年度の県債は、防災・減災対策の実施や台風第19号に伴う災害復旧事業などにより、前年度に比べ129億円の増加



歳入決算額	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
歳入総額	7,571	7,460	7,599	7,685	7,874	8,550	8,140	7,806	7,508	7,557	7,490	7,616	7,361	7,365	7,271	7,412	7,172
自主財源	3,929	4,078	4,432	4,493	4,832	4,509	4,197	4,127	3,913	3,650	3,815	4,063	3,936	3,754	3,698	3,630	3,664
県税	2,228	2,281	2,472	2,779	2,606	2,184	2,116	2,097	2,133	2,192	2,443	2,783	2,810	2,758	2,843	2,783	2,961
その他自主財源	1,701	1,797	1,960	1,714	2,226	2,326	2,081	2,030	1,780	1,457	1,372	1,280	1,126	995	855	847	703
依存財源	3,642	3,382	3,167	3,192	3,042	4,041	3,943	3,679	3,596	3,907	3,675	3,553	3,425	3,611	3,573	3,782	3,508
国庫支出金	1,007	865	709	696	843	1,359	999	909	856	1,120	894	935	856	876	855	928	841
地方交付税	1,557	1,471	1,400	1,251	1,260	1,308	1,411	1,419	1,375	1,323	1,326	1,236	1,267	1,190	1,258	1,255	1,309
県債	941	772	664	678	856	1,202	1,237	1,047	1,066	1,113	1,045	1,004	978	1,211	1,088	1,217	968
(臨財債)	332	255	229	207	252	510	803	637	640	665	607	457	384	460	448	380	380
(その他)	609	517	435	471	604	692	434	410	426	448	438	547	594	751	640	837	588
その他依存財源	138	274	393	566	83	173	296	304	299	350	409	377	324	334	372	382	390

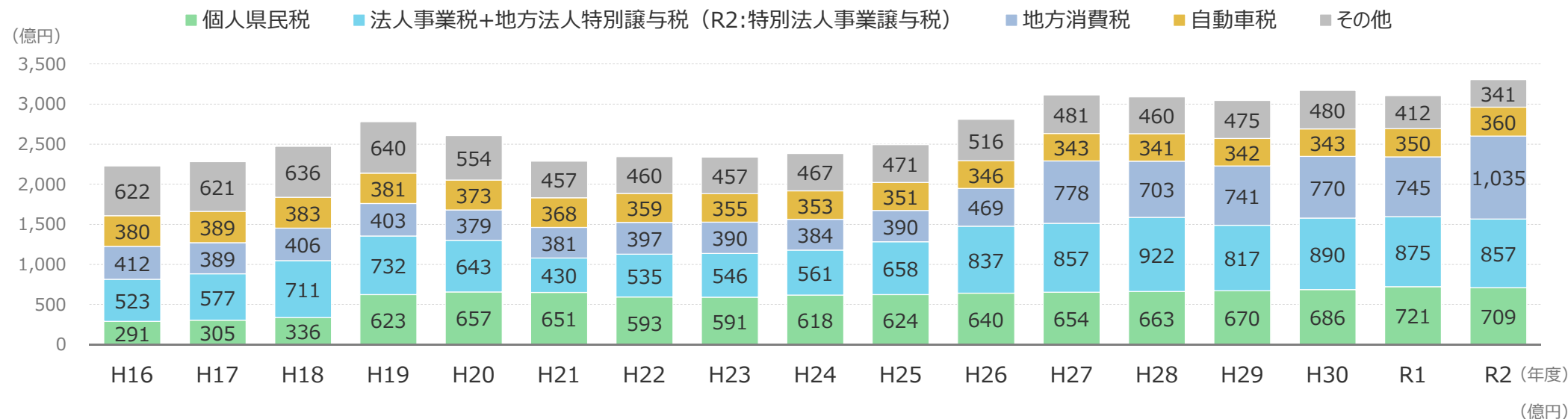
※県税は、地方消費税を清算後の額

※R元年度まで決算ベース、R2年度は当初予算ベース

県税決算の推移（普通会計）



- 主な税目は、個人県民税、法人事業税、地方消費税、自動車税など
- 法人事業税が景気の影響を受けることが、主な増減要因



歳入決算額	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
県民税	455	466	520	820	811	759	719	716	747	776	851	835	816	830	839	830	778
個人	291	305	336	623	657	651	593	591	618	624	640	654	663	670	686	721	709
法人	115	117	140	146	123	81	100	103	107	101	157	129	126	111	117	105	66
利子割	50	44	44	51	32	27	26	23	22	52	54	52	27	49	36	4	3
事業税	543	597	731	752	662	345	323	319	326	372	489	546	662	549	585	576	537
個人	20	20	20	20	20	18	16	15	15	16	17	19	19	19	21	21	21
法人	523	577	711	732	643	327	307	304	311	356	472	527	643	530	564	555	516
地方消費税	412	389	406	403	379	381	397	390	384	390	469	778	703	741	770	745	1,035
不動産取得税	64	73	70	74	70	58	48	50	47	51	60	50	57	56	59	54	46
自動車取得税	92	91	92	85	73	46	38	32	42	37	17	27	29	38	39	19	0
軽油引取税	218	214	208	201	175	154	175	172	172	174	172	167	166	169	175	176	172
自動車税	380	389	383	381	373	368	359	355	353	351	346	343	341	342	343	350	360
その他	64	32	62	63	63	73	57	63	62	41	39	37	36	33	33	33	33
合計	2,228	2,281	2,472	2,779	2,606	2,184	2,116	2,097	2,133	2,192	2,443	2,783	2,810	2,758	2,843	2,783	2,961
地方法人特別譲与税	—	—	—	—	—	103	228	242	250	302	365	330	279	287	326	320	341
法人事業税+地方法人特別譲与税	523	577	711	732	643	430	535	546	561	658	837	857	922	817	890	875	857

※地方法人特別譲与税はR2から特別地方法人事業譲与税

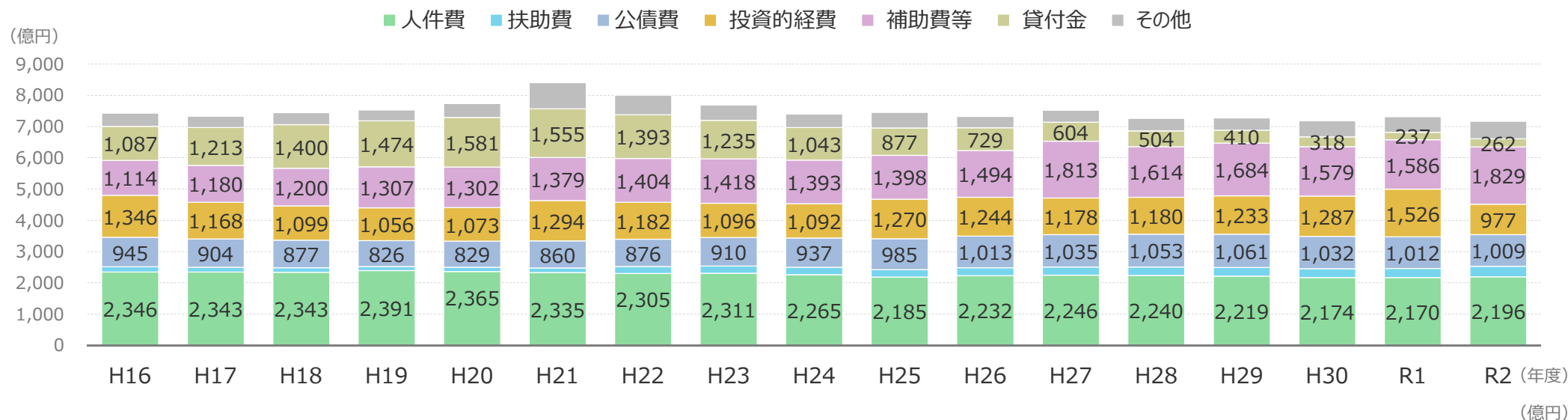
※地方消費税は清算後の額

※R元年度まで決算ベース、R2年度は当初予算ベース

普通会計決算（歳出・性質別）の推移



- 義務的経費は、人件費や公債費の減などにより、前年度に比べ 17 億円の減少
- 投資的経費は、防災・減災対策の実施や台風第19号に伴う災害復旧事業などにより、R元年決算では1,526億円となったが、事業の見直しを進め、R2年度当初予算では977億円に抑制



歳出決算額	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
歳出総額	7,426	7,332	7,441	7,532	7,737	8,403	8,004	7,687	7,400	7,451	7,319	7,519	7,258	7,273	7,180	7,312	7,172
義務的経費	3,458	3,407	3,366	3,348	3,332	3,341	3,397	3,448	3,438	3,410	3,494	3,539	3,561	3,555	3,487	3,470	3,542
人件費	2,346	2,343	2,343	2,391	2,365	2,335	2,305	2,311	2,265	2,185	2,232	2,246	2,240	2,219	2,174	2,170	2,196
（うち職員給）	1,750	1,762	1,763	1,764	1,759	1,707	1,663	1,648	1,635	1,570	1,633	1,632	1,626	1,620	1,586	1,582	1,579
扶助費	167	160	145	130	138	146	217	227	236	240	249	258	268	275	281	288	337
公債費	945	904	877	826	829	860	876	910	937	985	1,013	1,035	1,053	1,061	1,032	1,012	1,009
投資的経費	1,346	1,168	1,099	1,056	1,073	1,294	1,182	1,096	1,092	1,270	1,244	1,178	1,180	1,233	1,287	1,526	977
普通建設事業	1,340	1,161	1,093	1,027	1,045	1,285	1,180	1,084	1,077	1,263	1,231	1,168	1,171	1,223	1,276	1,471	937
災害復旧事業	5	7	6	29	28	10	2	12	15	7	12	10	9	10	11	55	40
補助費等	1,114	1,180	1,200	1,307	1,302	1,379	1,404	1,418	1,393	1,398	1,494	1,813	1,614	1,684	1,579	1,586	1,829
貸付金	1,087	1,213	1,400	1,474	1,581	1,555	1,393	1,235	1,043	877	729	604	504	410	318	237	262
その他	422	364	376	347	449	833	627	489	434	496	358	385	399	391	509	493	562

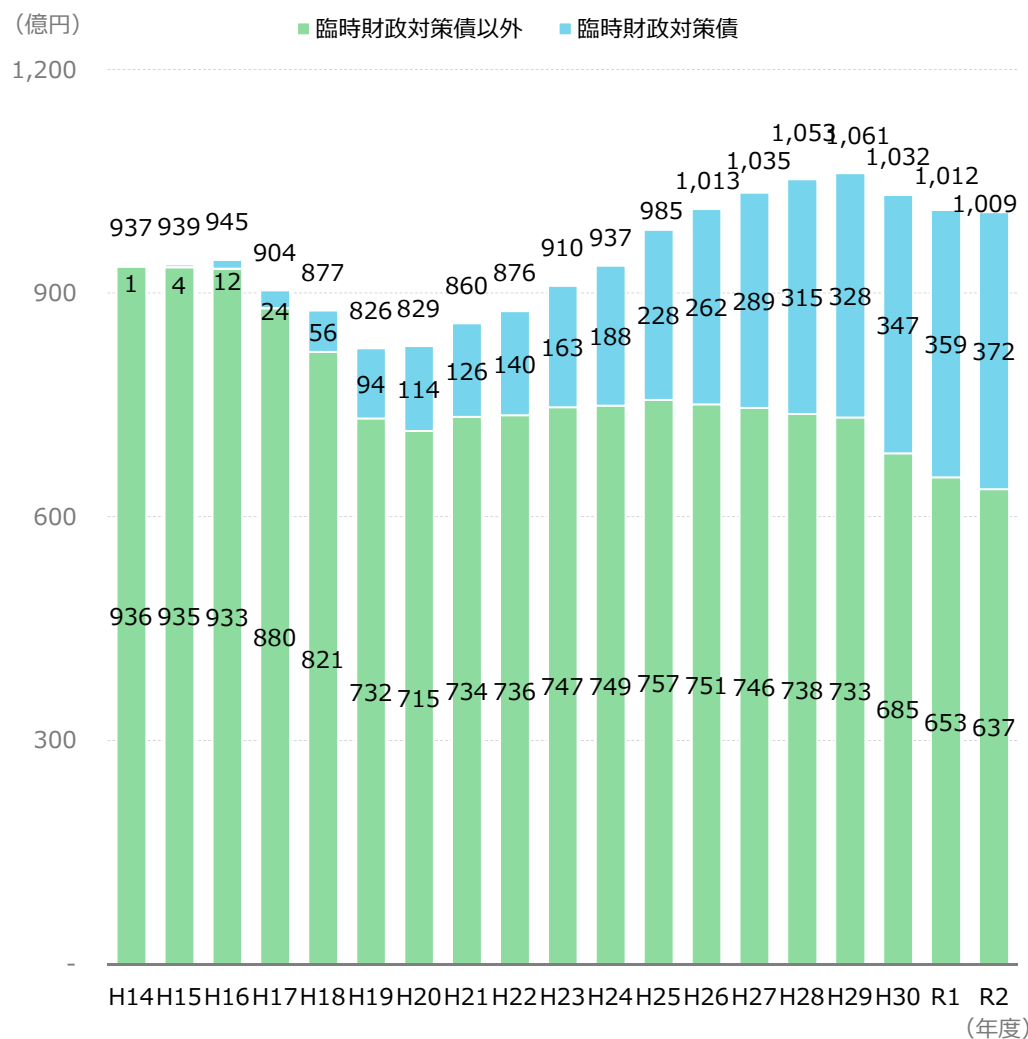
※R元年度まで決算ベース、R2年度は当初予算ベース

公債費及び投資的経費の推移



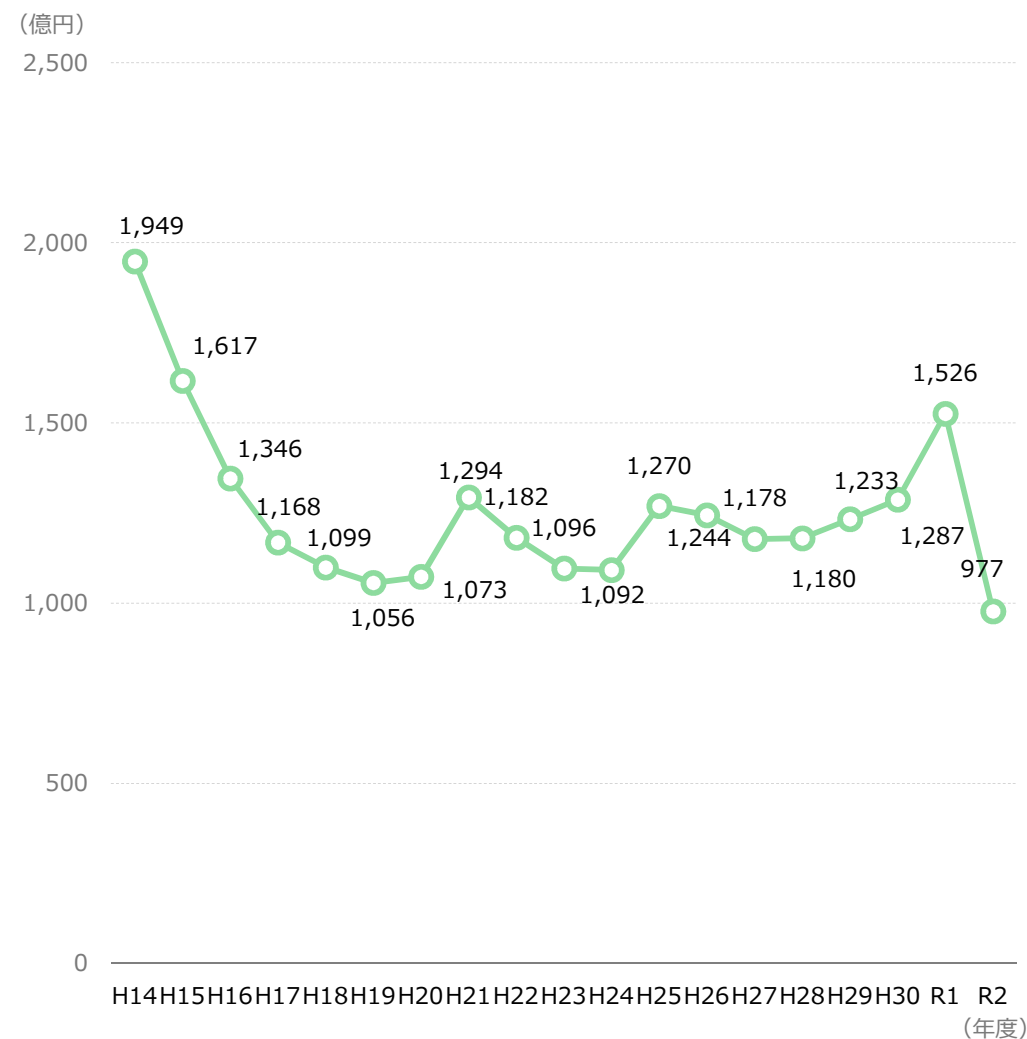
公債費

臨時財政対策債の償還費が増加する中、超長期債の発行によって償還年限を多様化するなど、戦略的な公債管理を行い、公債費の抑制に向けた取組を実施



投資的経費

投資的経費は、防災・減災対策の実施や台風第19号に伴う災害復旧事業などによりR元年度は一時的に増加したものの、R2年度当初予算では、公共事業等の抑制により大幅に減少



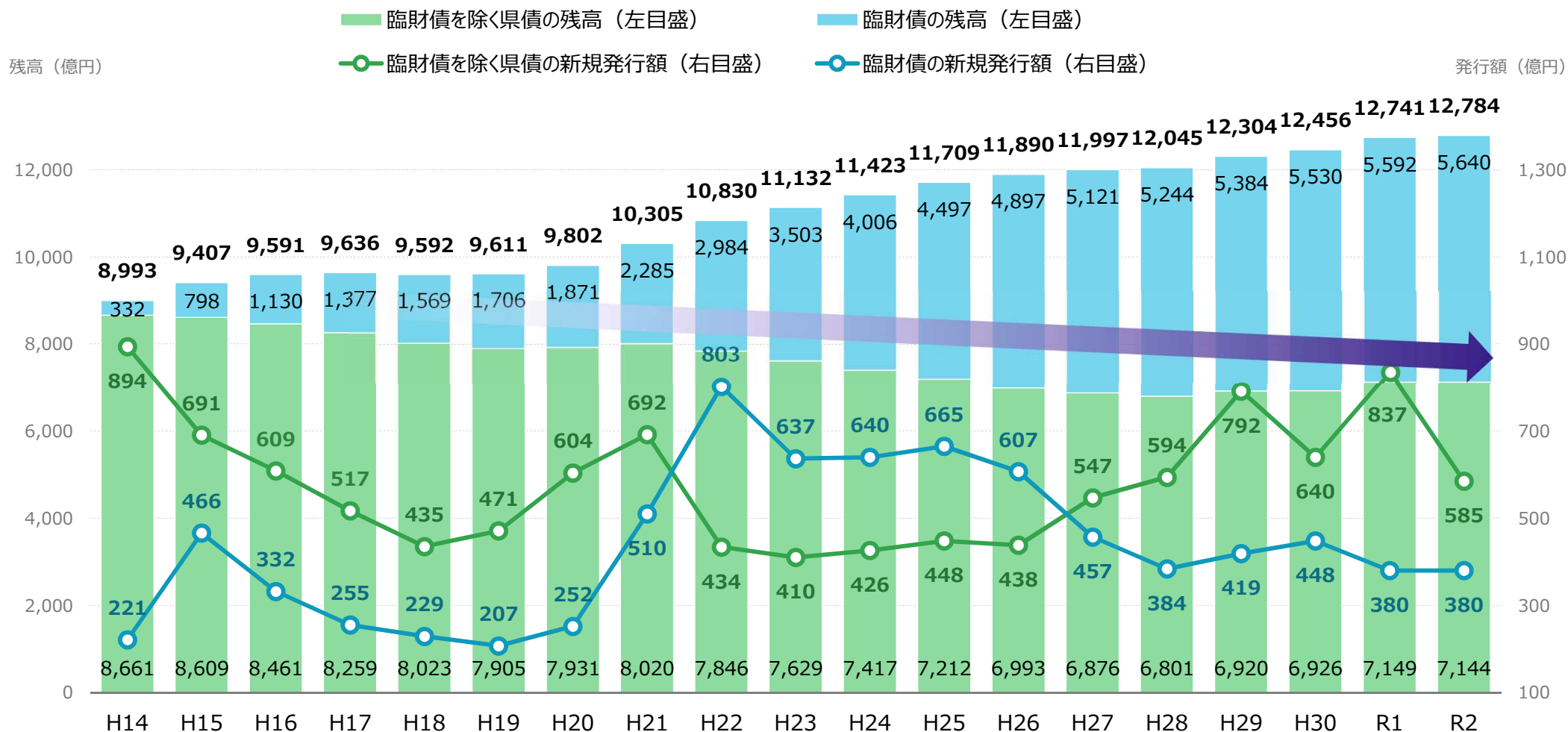
※ R元年度まで決算ベース、R2年度は当初予算ベース

県債新規発行額と残高の推移



- 実質的な地方交付税である臨時財政対策債の発行により、県債残高は増加
- 臨時財政対策債を除く県債残高は、H14年度をピークに減少傾向

普通会計ベース



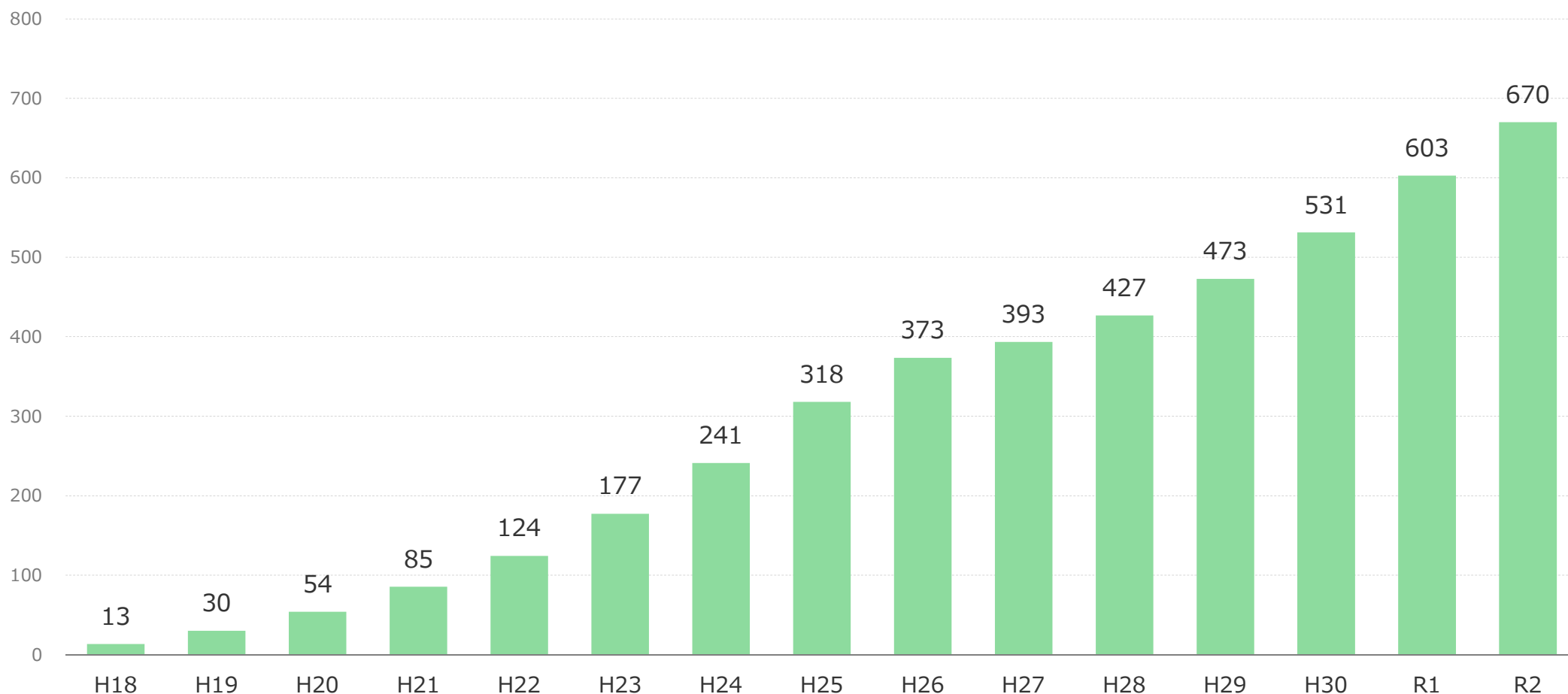
※ R元年度まで決算ベース、R2年度は当初予算ベース

減債基金への積立て



- 県債の償還に必要な財源を確保し、将来にわたる財政の健全な運営に資するため、「満期一括償還方式」による債券の償還財源について減債基金にルールどおり積立て

減債基金残高（年度末）の推移



※ R元年度まで決算ベース、R2年度は当初予算ベース

行政改革の取り組み



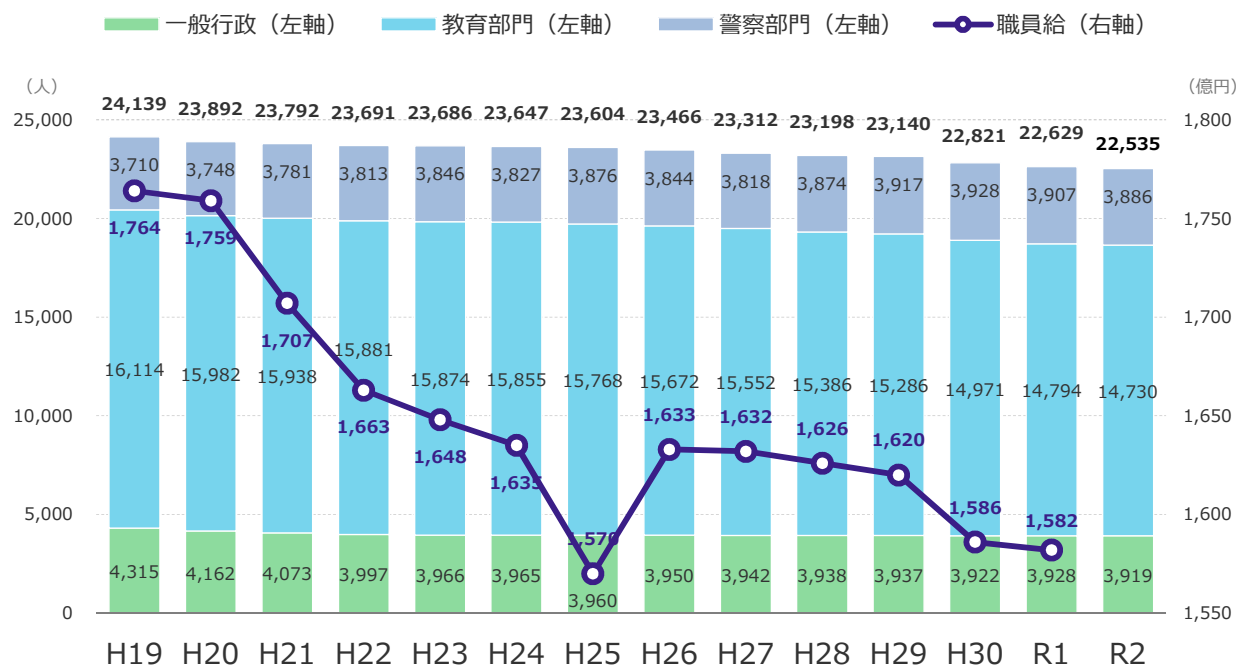
- 人口減少と少子化・高齢化が進む社会において、新たな行政施策にしっかりと対応できる体制をつくるため、「群馬県行政改革大綱」に基づき改革を推進（R元年度の計画実施率 91.7%）

群馬県の人口千人当たりの職員数

一般行政部門職員 **2.03人**（少ない方から数えて全国2位）

※東京都及び政令指定都市のある15道府県を除く（平成31年4月1日現在）

定員削減実績と職員給の推移（普通会計）



「行政改革大綱」の主な成果（H29～R元）

適正な定員管理

- ・ 一般行政部門 ▲52人
- ・ 教育部門 ▲656人

自主財源収入確保

- ・ 県有施設命名権売却、自動販売機設置収入等
- ・ 自主財源収入額 64.8億円

未利用財産の売却

- ・ 売却額 26.8億円

収入未済額圧縮

- ・ 圧縮額 13.4億円（県税＋税外収入）

内部管理事務の効率化

- ・ 入札での使用電力調達
- ・ 電気料金11.2億円削減

Section 3.

主な財政指標の状況

- 財政健全化法に基づく各指標は、財政の健全性を維持
- 特に実質公債費比率と将来負担比率は、共に良好な水準を維持しており、市場公募発行団体（都道府県）中でも上位の位置付け



富岡製糸場

明治5年(1872年)に明治政府が日本の近代化のために設立した模範器械製糸場です。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」として、周辺に点在する養蚕（ようさん）関連の文化財とあわせて、平成26年6月に世界遺産に登録されました。

財政健全化法に基づく財政指標の推移



- 各指標ともに、財政の健全性において良好な水準を維持

各指標の算定結果

	H29年度	H30年度	R元年度	早期健全化基準
I. 実質赤字比率	該当なし (黒字0.91%)	該当なし (黒字0.80%)	該当なし (黒字0.94%)	3.75%
II. 連結実質赤字比率	該当なし (黒字17.25%)	該当なし (黒字18.86%)	該当なし (黒字20.46%)	8.75%
III. 実質公債費比率	11.5%	11.2%	10.6%	25%
全国順位	第20位	第19位	第19位	
全国平均	11.4%	10.9%	10.5%	
IV. 将来負担比率	159.4%	162.9%	165.4%	400%
全国順位	第13位	第13位	第15位	
全国平均	173.1%	173.6%	172.9%	

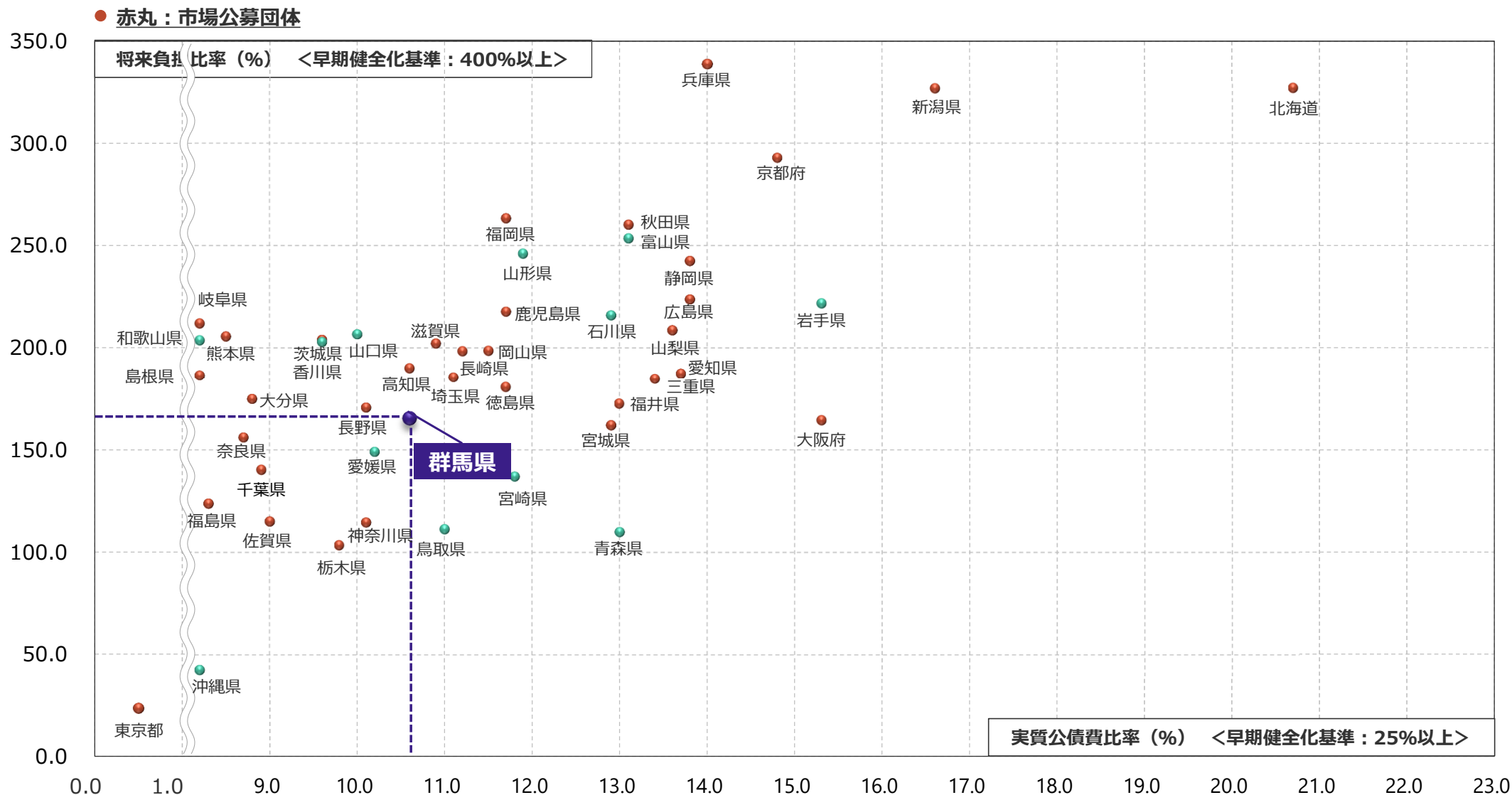
将来負担額の算定結果

項 目	金額 (億円)	算定内容
①地方債の現在高	13,350	満期一括償還分を含む地方債の残高
②債務負担行為に基づく支出予定額	13	土地改良事業負担金等
③公営企業の企業債償還への負担見込	188	流域下水道等
④組合等の借入償還に係る負担見込額	該当なし	
⑤退職手当の支給予定額	1,861	R元年度末に全職員が退職した場合の支給予定額
⑥設立法人の負債等に係る負担見込額	8	
群馬県住宅供給公社	2	
群馬県信用保証協会	6	
A 将来負担額計（①～⑥の計）	15,421	
B 充当可能基金	748	減債基金、財調基金等
C 充当可能特定財源	125	公営住宅使用料等
D 交付税算入見込額	8,336	
分子 A - (B+C+D)	6,213	

将来負担比率と実質公債費比率（令和元年度決算）



- 現在及び将来に対する財政健全度は、市場公募発行団体（都道府県）中でも上位の位置付け

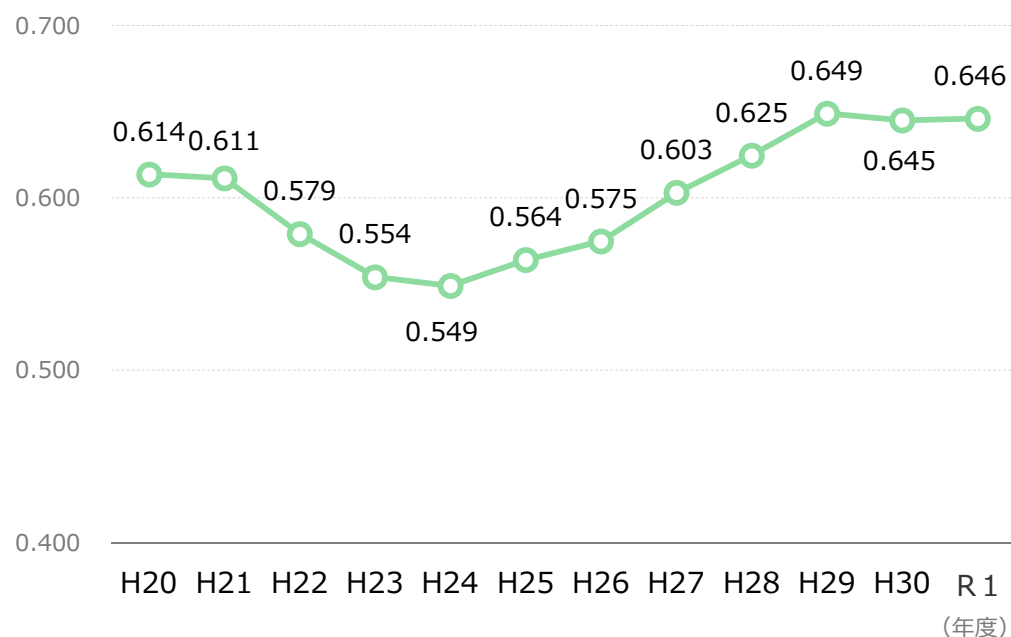


財政指標の推移



財政力指数

財政運営の自主性の大きさを示す指数で、財政運営に必要となる一般財源のうち、自前で調達できる県税がどれくらい確保できるかという割合を理論的に求めたもの。



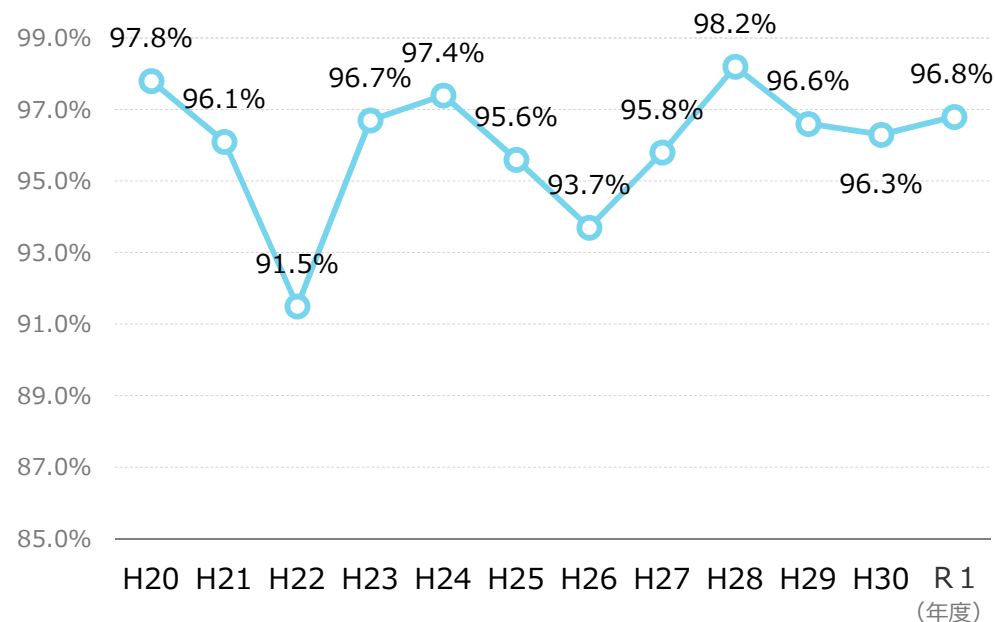
財政力指数

0.646

全国平均 R元 集計中 (H30 : 0.518)

経常収支比率

「財政構造の弾力性」を判断するための指標で、地方税や地方交付税など経常的に収入される一般財源のうち、人件費や公債費などの経常的に支出する経費に充当された額の割合。



経常収支比率

96.8%

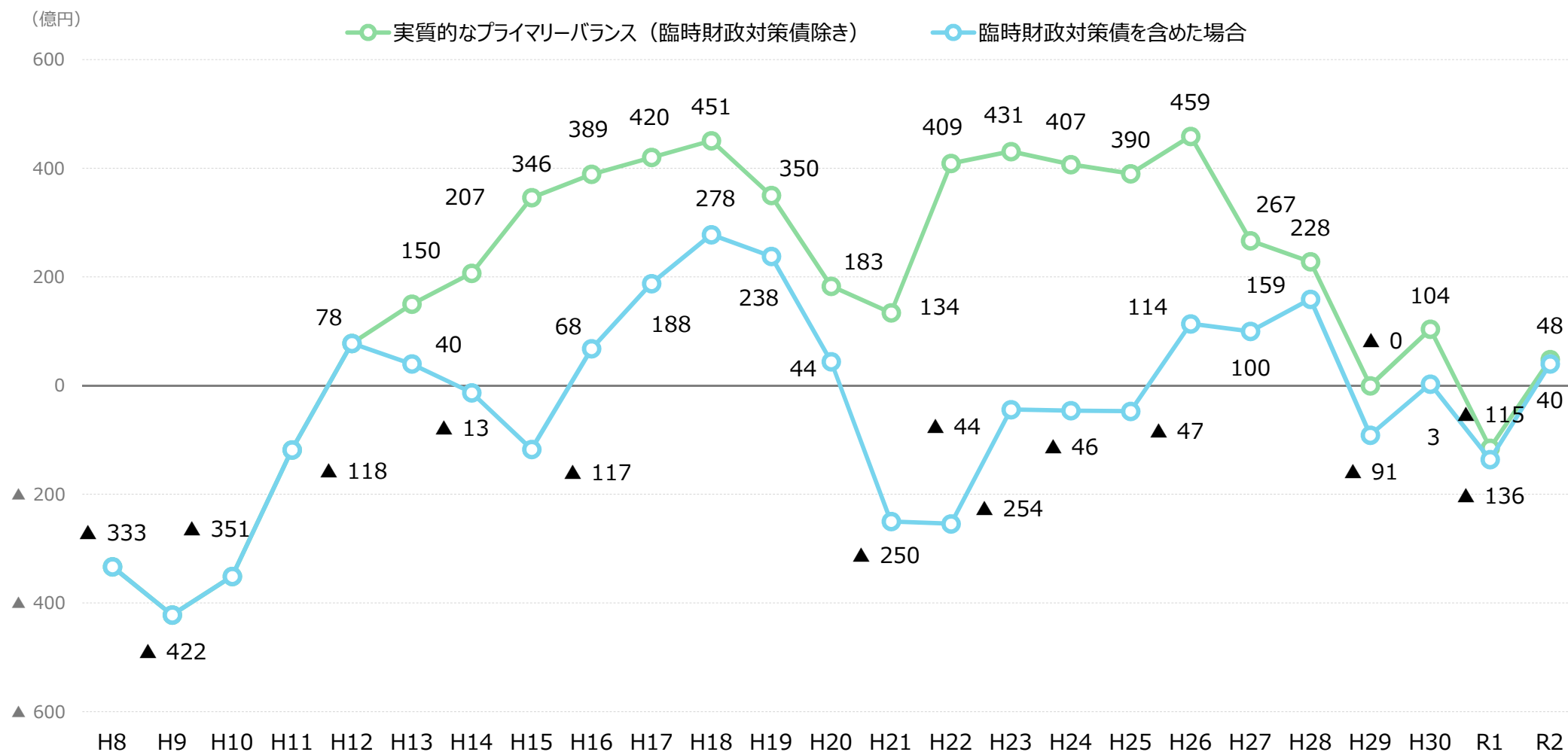
全国平均 R元 集計中 (H30 : 93.0%)

プライマリーバランスの推移（決算ベース）



- R元決算では、実質的なプライマリーバランス（臨時財政対策債除き）は、防災減災対策の集中実施や台風第19号の災害復旧事業などにより、▲115億円の赤字となったが、R2当初予算では防災減災以外の公共事業総額を抑制し、48億円の黒字

一般会計ベース



Section 4.

公営企業・地方公社等について

- 令和元年度決算では、すべての公営企業会計で資金不足はなく、財政健全化法に基づく経営健全化基準値（▲20%）をクリア
- 地方三公社（住宅供給公社、土地開発公社、道路公社）のうち「群馬県住宅供給公社」のみ存在。住宅供給公社の主な業務は、県営住宅管理業務であり、安定した経営



ぐんま県境稜線トレイル

群馬と新潟・長野の県境に位置し、稜線の長さでは国内最長（約100 km）のロングトレイルとなり、新たな観光誘客の目玉として期待されています。

公営企業会計の決算状況



- 全ての会計で資金不足はなく、財政健全化法に基づく経営健全化基準値（▲20%）をクリアしている
- 水道事業は、水道企業団（県内市町村で構成）へ一部事業を譲渡したため、特別損失を計上した。結果、純損失が9,284百万円となったが、資本金・資本剰余金を取り崩して損失を処理したため、実質的な損失は発生していない
- 病院事業は、前年度に比べ医業費用が増加したことなどから、純損失843百万円となった
H30年度からスタートした第四次県立病院改革プランに基づき、計画期間中の黒字化を目指す

（百万円）

区分		電気	工業用水道	水道	団地造成	施設管理	病院	合計
損益計算書	営業収益（A）	7,734	1,591	6,223	5,686	730	23,385	45,349
	営業費用（B）	5,749	1,403	4,510	5,193	696	29,149	46,700
	営業損益（C=A-B）	1,985	188	1,713	493	34	▲5,764	▲1,351
	営業外収益（D）	140	295	450	7	5	5,517	6,415
	営業外費用（E）	52	169	302	5	0	664	1,193
	経常損益（F=C+D-E）	2,071	314	1,861	495	39	▲911	3,872
	特別利益（G）	52	319	4,823	0	0	85	5,279
	特別損失（H）	19	41	15,968	50	0	17	16,095
純損益（I=F+G-H）		2,104	592	▲9,284	445	39	▲843	▲6,947
貸借対照表	資産の部	72,925	20,726	69,085	29,855	9,057	33,508	235,156
	固定資産	36,634	18,782	50,592	6,188	7,985	26,105	146,286
	流動資産	36,291	1,944	18,493	23,667	1,072	7,403	88,870
	負債の部	7,556	12,472	23,722	2,301	1,715	30,804	78,570
	固定負債	5,314	7,043	13,598	1,406	1,460	19,578	48,399
	流動負債	936	1,000	1,482	895	253	6,192	10,758
	繰延収益	1,306	4,429	8,642	0	2	5,034	19,413
	資本の部	65,369	8,254	45,363	27,554	7,342	2,704	156,586
	資本金等	57,478	4,121	34,204	26,122	5,349	10,434	137,708
	剰余金	7,891	4,133	11,159	1,432	1,993	▲7,730	18,878
財政健全化法上の資金不足額（資金収支）		35,543	1,647	18,008	18,414	896	4,153	78,661

地方三公社の決算状況（住宅供給公社）



- 本県では、地方三公社（住宅供給公社、土地開発公社、道路公社）のうち「群馬県住宅供給公社」のみ存在（土地開発公社は平成21年8月末で解散、道路公社はもともと設置していない）
- 群馬県住宅供給公社の主な業務は、県営住宅管理業務（維持管理、家賃収納業務を県から受託）であり、安定した経営を行っている

貸借対照表

（百万円）

区分		H29年度	H30年度	R元年度
資産	流動資産	1,823	1,840	2,105
	固定資産	6,501	6,230	6,031
	繰延資産	—	—	—
	資産合計	8,324	8,070	8,136
負債	流動負債	1,668	1,484	1,583
	固定負債	3,148	3,112	3,070
	特別法上の引当金等	—	—	—
	負債合計	4,816	4,596	4,653
資本	資本金	40	40	40
	剰余金	2,553	2,581	2,590
	法定準備金	914	853	853
	資本合計	3,507	3,474	3,483
負債・資本合計		8,324	8,070	8,136

損益計算書

（百万円）

区分		H29年度	H30年度	R元年度
経常損益	営業収益 (a)	3,012	3,057	2,976
	営業費用 (b)	2,859	2,901	2,883
	一般管理費 (c)	69	83	90
	営業利益 (d=a-b-c)	84	73	3
	営業外収益 (e)	49	46	49
	営業外費用 (f)	52	55	45
	経常利益 (g=d+e-f)	81	64	7
特別損益等	特別利益等 (h)	5	100	3
	特別損失 (i)	—	99	0
当期利益 (j=g+h-i)		86	65	10

出資法人の状況



- 県が25%以上出資する公社・事業団等については、解散を含め、そのあり方の見直し等を行った結果、平成20年4月1日現在34団体であったものが、令和2年4月1日現在24団体に減少

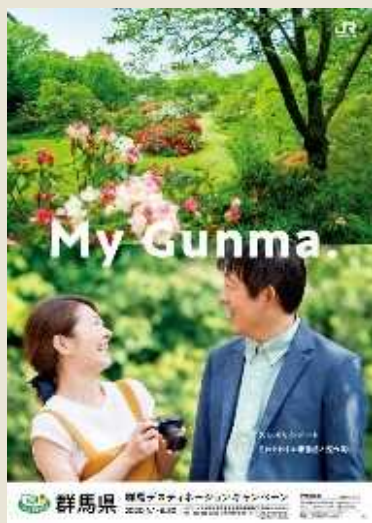
主な法人の経営状況（出資金・出えん金が5億円以上など）

法人名	県出資等 (千円)		当期損益 (千円)		純資産又は 正味財産 (千円)
	県出資額	比率	H30年度	R元年度	
群馬県公立大学法人	1,500,515	100.0%	43,104	35,103	1,585,495
(公財) 群馬県観光物産国際協会	863,000	88.7%	▲28,098	▲8,079	1,138,978
(公財) 群馬県蚕糸振興協会	662,500	53.9%	2,704	▲2,115	1,225,846
(公財) 群馬県産業支援機構	613,050	80.3%	6,843	13,405	1,102,266
(一財) 群馬県森林・緑整備基金	580,000	100.0%	41,008	45,788	1,694,253
(公財) 尾瀬保護財団	545,329	35.1%	4,535	3,996	1,678,412
(公財) 群馬県暴力追放運動推進センター	512,275	82.1%	▲707	▲1,562	650,483
(公財) 群馬県スポーツ協会	502,700	68.7%	▲648	1,337	1,084,467

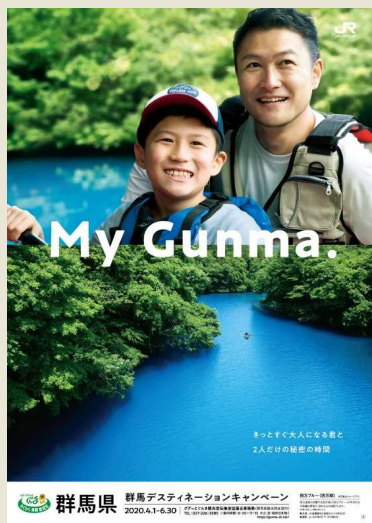
Section 5.

市場公募債発行計画

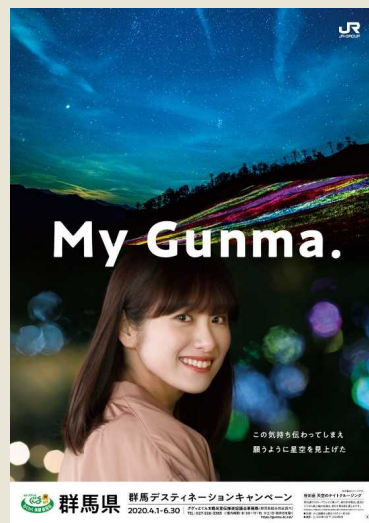
群馬デスティネーションキャンペーンポスター



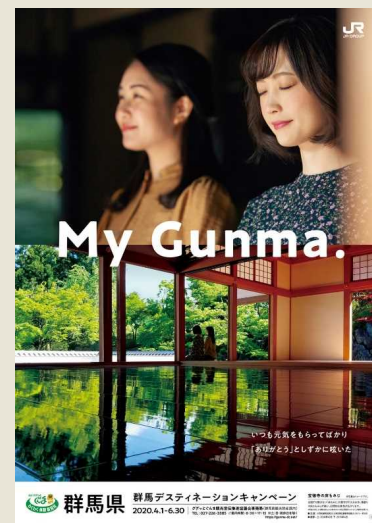
赤城自然園
(渋川市)



四万湖
(中之条町)



天空のナイトクルージング
(みなかみ町)



宝徳寺
(桐生市)



草津温泉
(草津町)

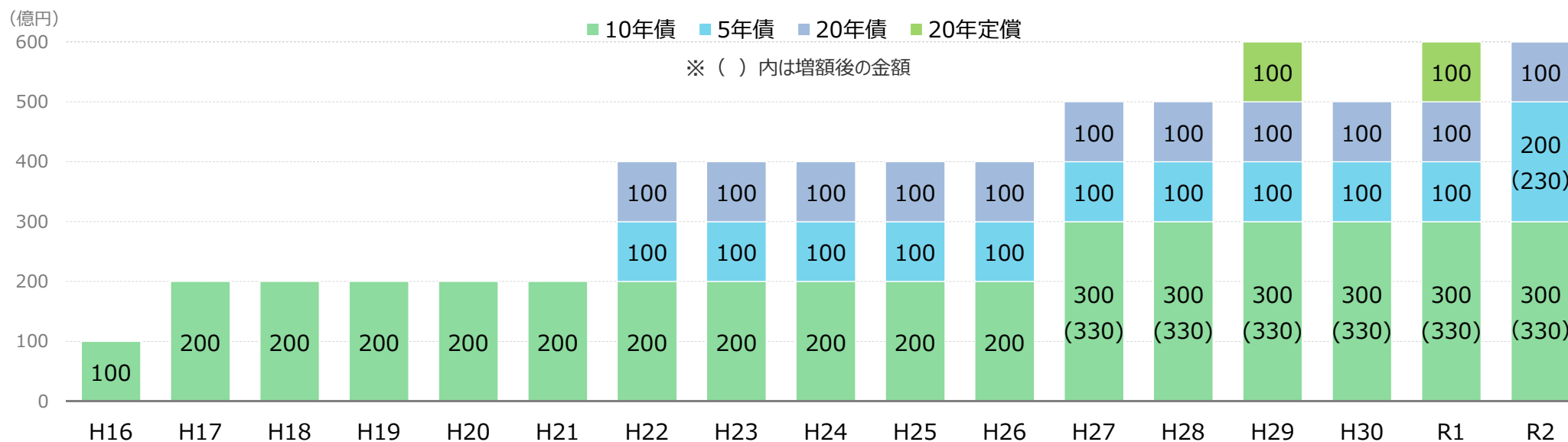
令和 2 年度市場公募債発行計画



令和 2 年度市場公募債発行計画

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5年債					100 (130)			100					200 (230)
10年債					100 (130)			200					300 (330)
20年債			100										100
合計			100		200 (260)			300					600 (660)

市場公募債発行額の推移



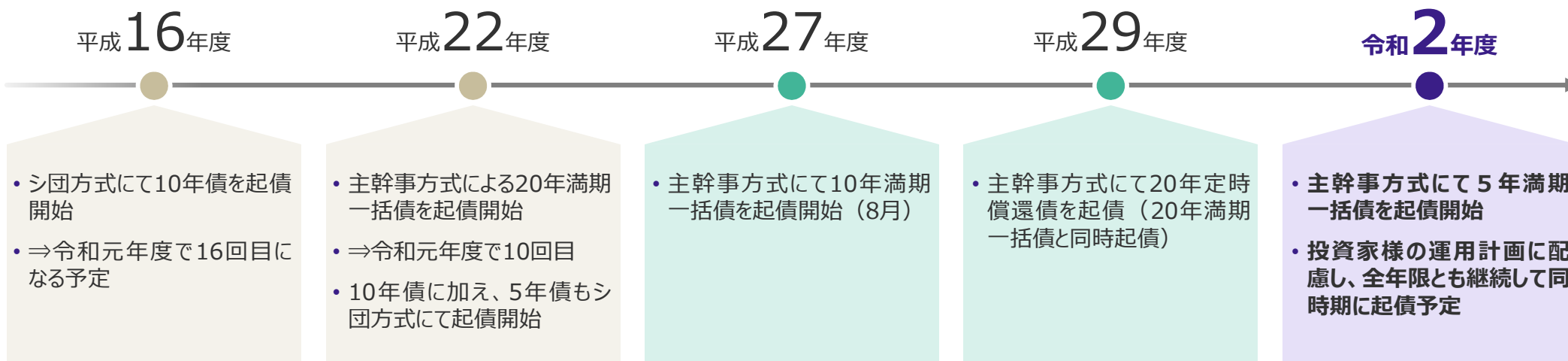
群馬県の起債運営について



- 幅広い投資家の皆様に群馬県債を安心して購入いただくため、主幹事方式での起債を重視しております

主幹事方式による起債のコンセプト

- ・ 低金利環境が長期化する中、投資家の皆様の利回り確保のニーズ に応えるため、超長期債として20年満期一括債の発行を継続
※ 平成29年度及び令和元年度は、調達額が例年に比べ増加したため、足許需要が拡大している20年定時償還債も発行
- ・ また、10年満期一括債について、大口投資家の皆様のロット確保ニーズに応えられるよう、シ団方式に加え、主幹事方式でも起債
- ・ さらに、令和2年度から5年満期一括債についても、シ団方式に加え主幹事方式でも起債



本件に関するお問い合わせ先

群馬県総務部財政課県債係

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1

TEL 027-226-2096

FAX 027-224-9123

E-mail marketbond@pref.gunma.lg.jp

HPアドレス <http://www.pref.gunma.jp/>

- 本資料は投資家向けに情報提供するものであり、投資に関する売買等の取引を提案、勧誘、助言するものではありません。
- 本資料に掲載している情報は、修正される場合があります。
- 本資料内のデータは、信頼できるとされる各種データに基づき作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。